

認知症に関する活動計画(概要)

福島県作業療法士会では、2026年度より介護保険部に認知症担当班を設け、認知症に関する研修会や情報交換等の活動を企画・運営していきます。昨年度、県士会員を対象に実施したアンケート結果をもとに、会員のニーズや現場の課題を把握し、今後の研修企画や活動計画に反映していく予定です。今後は、医療・介護・地域など所属領域を越えて認知症支援に関わる作業療法士同士がつながり、Zoom等を活用しながら情報交換できる場を設けます。各領域における実践や課題を共有し、認知症の人の生活を支える作業療法の専門性を高めるとともに、一般の方への啓発活動にもつながっていきます。

認知症に関するアンケートから見てきたこと

昨年「認知症」にどのような形でかかわっているのか県士会員にアンケート調査を行いました。106名の方から返答をいただき認知症に関係する地域活動に参加しているまた、参加したことがある人が約52%いました。(初期集中支援チーム、認知症カフェ、当事者の会など)それぞれの活動は県士会として派遣するという形ではないものの作業療法士一人一人が地域の中で活躍されていることがわかりました。研修会や情報交換会の開催で実力を高め認知症になっても暮らしやすい地域づくりに作業療法士が戦力として期待参加できるようにしていきたいと考えています。

チームオレンジ活動

チームオレンジに関する取り組みでは、県全体の事業を牽引する中心人物「オレンジチューター」として作業療法士が参加しています。具体的には、福島県全体のチームオレンジに関する計画を担当者とともに策定するほか、全市町村を対象としたコーディネーター養成研修の企画や講師を務めています。さらに、圏域ごとに保健福祉事務所と連携して個別の市町村や圏域への支援を行うとともに、個別市町村からの相談対応やステップアップ講座の講師を務めるなど、多角的な支援を展開しています。今後の方針として、県内でまだ未設置となっている市町村への継続的な設置支援を行っていきます。また、すでに設置済みとなった市町村に対しても、認知症の人の意向をどのように反映させていくか、そして本人の「やりたい生活行為」を継続するための支援体制や仕組みづくりについて、継続的な検討を重ねていきます。



市町村担当者への研修の様子

認知症カフェ

2016年に認知症カフェしゃべりばを有志支部員で開設し、今年で10年を迎えました。コロナ禍で一時休止しましたが、再開し、地域の活動として徐々に根付いてきました。本年度は、月平均5～6名の方の参加があります。一方で、スタッフ不足という課題もあります。毎回、平均的な協力は得られず、協力者はほぼ固定化し、スタッフ一人当たりの負担が大きくなっているのが現状です。今後は、これまでの活動の良いところを大切にしつつ、時代に合った形で持続可能なものにしていけるよう、運営方法を見直していきたいと考えています。

